

未来に流れる遠賀川



国土交通省遠賀川河川事務所
所長 松木 洋忠

その遠賀川のことですが、みなさんは、今の遠賀川の姿かたちや生きものが、昔から大きく変わっていることをご存じですか。堰や護岸だけのことではありません。遠賀川のまっすぐな流れやきれいとはいえない水質も、みんな人の手が加わっています。

遠賀川は、二千年の歴史の中にいた流域の人たちによつて、稻作のために造りこまれ舟のために造りこまれ、炭坑

みなさん今日は。日頃から遠賀川を愛する生活、活動を行われている皆さんに感謝しています。

魚や鳥や人の生活が営まれています。必ずしも自然豊かとは言えず、棲みやすくないところもあるはずですが、みんな与えられた環境の中で精一杯生きています。

そして、今の私たちの遠賀川へのたらきかけが、未来の遠賀川の自然環境や社会環境を、創つてることも確かなことです。

魚や鳥や人の生活が営まれています。必ずしも自然豊かとは言えず、棲みやすくないところもあるはずですが、みんな与えられた環境の中で精一

のためになつてきました川です。

その川を舞台にして、今、

遠賀川流域だより

第003号

おかえりなさい



体長 65cm・重量 約2kg
お腹には卵がありました

昨年11月28日（遠賀町）に引き続き12月6日（田川市）、サケの雌が長い海の生活を終え遠賀川に帰ってきた。

ふ化して5~7cmに育ったサケの稚魚は、春になると川を下り、海水温の低い日本海から北海道、アラスカ、ベーリング海を回遊し、産卵年齢（3~4年後）になると、稚

魚のときに記憶した川のにおいをかぎあてながら母川にもどってくる。

香春岳のふもとを流れる金辺川は彦山川の支流。その下流の夏吉橋（田川市）は、遠賀川河口から約35km離れた所で今回サケが発見された。サケは川に沈み、すでに死んでいた。産卵場所である遠賀川の湧き水を求めて、力の限り

上ってきたのであろう。国内で唯一、サケを神の使者として祭っている嘉麻市大隈の鮭神社で、12月13日、五輪豊穣を祈る「献鮭祭」が行われた。今回発見されたサケや全国から届けられたサケ、12匹が境内にある鮭塚に奉納された。

同日、サケの受精卵4万個が、各団体のふ化・飼育場へと運ばれた。1月末には、サケはふ化し、順調に行けば3月には放流ができるという。今回、雌のサケが帰つてきたことで、遠賀川流域住民による稚魚放流活動が着実に実を結んできたと思われる。たくさんの中のサケが帰つてくることを願つておる。



慎重に受精卵を
ふ化槽に移す



鮭塚に奉納さ
れるサケ

⑦ 第20回しじみまつり(大任町)

主催 大任町商工会青年部・女性部
大任町 彦山川六本松河川敷
10月29日(日) 8日(日)10時~15時
参加人数500人 ゴミの量2t



今年20回目を迎えたしじみ祭は中州に特設ステージを設置して開催。消防団による記念放水ではじまり、まず中州でのクリーン大作戦。きれいになった川の中に入って子どもも大人もしじみ採りに熱中。河川敷では商工会女性部が作ったしじみ汁をはじめ、出店も並び訪れた人たちを喜ばせていました。



⑨ 第19回 I LOVE遠賀川

主催 ILOVE遠賀川続行委員会
飯塚市 あいタウン前河川敷
10月8日(日) 10時~15時
参加人数2,500人 ゴミの量4t



今年で19年目になります。年に1回ですが飯塚市及び遠賀川流域の各地域に河川清掃事業として定着しております。今年は河川工事が本格的に行われており何時もの河川散策気分での清掃作業とはいきませんでした。しかし、飯塚カヌー協会の皆さんのがカヌー7艇、川船製作研究会より川ひらたで川の中を清掃していただきました。清掃後は川ひらたの試乗会を行いました。楽しみながらの「I LOVE 遠賀川」でした。

⑪ なつきクリーンクラブ

嘉麻市立稲築西小学校5・6年生
学校前河川敷周辺
毎月第2水曜日 参加人数約20人
ゴミの量 ゴミ袋10袋



授業で環境教育を学び、ゴミのないきれいなまちづくりをしていきたいと思うようになった児童がボランティアの会を結成。現在の会員数15名。毎月1回お昼休みの30分間、清掃作業をしています。作業時には住民も参加、きれいなまちをめざしている。バス停付近では特にタバコのポイ捨てが多く、拾うのに苦心しています。「ポイ捨ては止めてください」



⑬ 山田川クリーン作戦・ 山田地区いっせい清掃

10月22日(日)
嘉麻市山田地区
参加人数2,500人 ゴミの量4t

今年度は山田川クリーン作戦と山田地区いっせい清掃を同日開催。山田川では、中学生が多く参加、川に捨てられたペットボトルや空き缶などを拾った。



⑫ I LOVE遠賀川inいなつきクリーンキャンペーン

11月4日(土)
稲築桜づみ親水公園
参加人数320人 ゴミの量軽トラック6台分



ふるさとの川をきれいにしようと、秋祭りに集まった子どもから大人までの人々が約1時間河川敷や土手に捨てられた空き缶やペットボトルなどを拾いました。

⑭ 第12回 I LOVE遠賀川in嘉穂クリーンキャンペーン

10月22日(日)
大隈橋上下流約3km
参加人数 120人
ゴミの量 軽トラック2台分



ゴミ拾いの後、自然の川で、魚などの生き物にふれあい、ふるさとの川を体験してもらいたい思いから、上流の転倒井堰の開閉で一時、川を干して魚を捕り、その場でさばいて、天ぷらにして食べました。畑の野菜と同じように、子ども達は豊かな自然の恵みを堪能していました。

⑧ 小竹町 (役場前河川敷) 親睦つり大会での清掃活動

主催 遠賀野鯉会
10月15日(日)
参加人数 13人 ゴミの量 100kg

第2回遠賀川河川敷清掃活動

主催 NPO法人クリーンワールド
10月22日(日)
参加人数 15人
ゴミの量 軽トラック 1台分



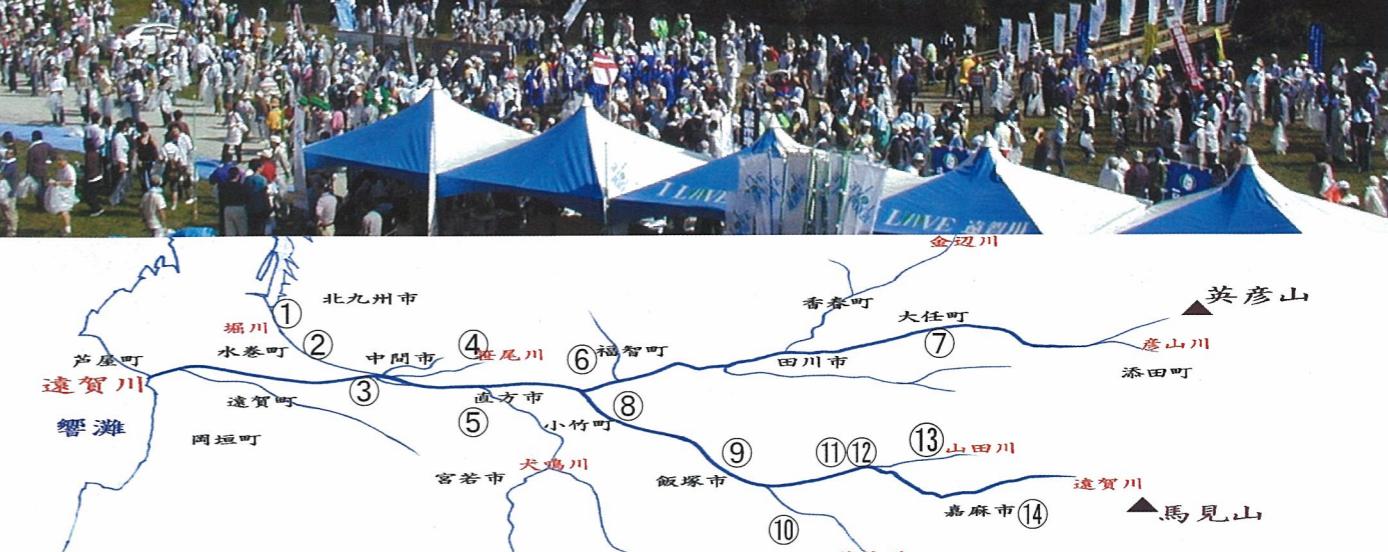
⑩ WE LOVE 穂波川

主催 穂波ボランティア等連絡協議会
10月8日(日)
参加人数 80人
ゴミの量 1.5t

当初に比べて参加人数が減少してきました。次年度から、私たちの穂波川の大切さをたくさん的人に呼びかけていきます。



2006秋 遠賀川流域で清掃活動が行われました
集まった人 約16000人 ゴミの量約30トン

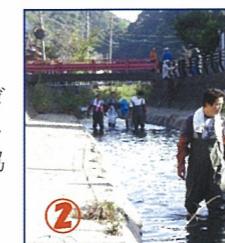


水は自然の恵みです。しかし、大切にしなければ水はどんどん汚れ、川にはゴミが大量に流れ出します。昨秋「ゴミを捨てないで」と呼びかけ、各地域で清掃作業が行われました。今回、紹介する以外でも地域で清掃活動が行われています。遠賀川は源流から河口まで約61kmあります。みんなで手をつないで大きな輪をつくって、私たちの命の源である水をきれいにしていきましょう。

①～④ 堀川いっせい清掃

主催 堀川まちおこし実行委員会
9月24日(日) 水巻町 (40人 2.5t)
10月1日(日)
八幡西区楠橋 (42人 2.5t)
中間市 (37人 2.5t)
八幡西区折尾 (260人 5t)

堀川沿い



2002年に折尾地区(50人)で清掃が実施され、その後、2003年には、中間市、水巻町(計260人)が参加。2004年には楠橋地区が参加して計420人のいっせい清掃が実施。2005年(350人)、2006年(380人)と現在も清掃活動を実施している。

2005年までは、小型バイクや自転車など大型のゴミが目立っていたが、小学生を対象としたペットボトル風車事業や地域の大学生、高校生などと協働しての清掃活動によりモラルの向上が図られ、大型のゴミが減少した。

⑤ 市内一斉清掃(直方市)

主催 直方市環境衛生連合会・直方市(共催)
12月3日(年2回開催)
参加人数 9,000人
ゴミの量 6,000枚



住み良いきれいな街づくりのため、年2回市内一斉清掃を実施しています。学校単位での参加などもあって活動は広がりを見せています。身近な自然環境や快適な生活環境をこれからも保全していきましょう。

⑥ ひこさんがわ夢の会(福智町)

毎月第2土曜日
彦山川上野橋下流左岸から市場小学校下流
参加人数(会員76人) 作業参加者平均約40人
ゴミの量 大型ゴミ袋(20kg)で10袋から40袋



毎月河川清掃をして10年。ゴミの量は減ることなし。今年の洪水の後は1時間位でゴミ38袋が回収された。彦山川(中元寺)上流の中元寺小学校の総合学習でこの話をしたら、子ども達の質問の中で、毎月何年も作業してもそんなにゴミがあると腹が立ちませんか、との質問。

遠賀川散歩道

堀川スカベンジャー 堀川くるくる隊!

北九州市
中間市
水巻町

堀川は、遠賀川から分かれ
八幡西区楠橋に始まり、中
間市、水巻町、そして再び
八幡西区折尾を経て洞海湾
へと注ぐ運河です。「堀川
まちおこし実行委員会」の
皆さんに堀川を紹介いた
だきます。



今までの活動

平成13年(2001年)

7月 シンポジウム「堀川を考えるシンポジウム」開催

平成14年(2002年)

8月 シンポジウム「わいが堀川塾」を開催

11月「魅力再発見! 堀川ウォーク」を開催

11月 下流の折尾地区で住民有志が清掃活動を実施

平成15年(2003年)

1月「堀川を考えるワークショップ」を結成

4月 堀川ウォーキング「堀川散策と吉祥寺の森まつりを訪ねて」を開催

9月 オリジナルCD「結和流々(ゆわるる)」を作成

10月 流域各地での共同イベント「堀川ラボ2003」を開催

10月 中間市・水巻町・八幡西区(折尾地区)で「堀川一斉清掃」を実施

平成16年(2004年)

1月 シンポジウム「第2回わいが堀川塾」を開催

10月 堀川開削二百周年記念事業を開催

(堀川いっせい清掃・堀川スカベンジャー・堀川サミット2004など)

平成17年(2005年)

ほりかわスカベンジャー「堀川くるくる隊」を開催

10月 (堀川くるくる風車・風守アーティスト・堀川いっせい清掃など)

平成18年(2006年)

ほりかわスカベンジャー「堀川くるくる隊2006」を開催

10月 (堀川くるくる風車・ホリスカ・フォト・カップ2006・堀川いっせい清掃など)



川ひらた

「川ひらた」、「ひらた船」と呼ばれる川船は、江戸時代は米や雑貨の運送に、また同時に代末から明治、大正にかけては筑豊の石炭運送の主役として活躍しました。明治24年に若松～直方間に鉄道が開通したことによって、一時期は全盛を極めた川ひらたは大正期に入つて姿を消しました。現在、北九州市では1隻のみ折尾高校に保存されています。

堀川車返しの切り貫き

元和7年に堀川開削工事に着工したときは現在の筑豊本線沿いに中間村へ掘り進むコースでしたが、地層と特異な急斜面により工事が難航しました。そのため、工事中断後再開された時は別のコースをとり、吉田村の車返しの岩盤を掘り貫く工法を取ることにしました。

現在でも岸壁に残されたノミのあとが難工事であったことを物語っています。このとき使用されたノミやツチの数が膨大であったため、この近くには鍛冶場が作られました。

遠賀川から水を引き入れるために、取水口が必要でした。そこで、藩(はん)の役人は、一田久作(いちだきゅうさく)に洪水に強い水門づくりを命じました。久作は、土木技術のすんでいた備前(びぜん)の国に調べに行くなど研究・苦労を重ね、ようやく堀川が洞海湾に通じたのと同じ1762年(宝暦12年)、中間村にどんな洪水にもたえられる新しい水門が完成しました。これが中間の唐戸(からと)です。その後、中間の唐戸の約2km上流の楠橋村(くすばしむら)の寿命(じめ)に取水口(しゅすいこう)と水門(すいもん)が移されました。



ほりかわサイクリング

列車に自転車を乗せて移動し、堀川流域をサイクリングしました。
【開催日】10月8日(日)
【ルート】JR折尾駅～新入駅～直方～楠橋～中間～水巻～折尾

堀川めだか

堀川で密かに生息している絶滅危惧種のクロメダカを堀川流域の3小学校(折尾東、折尾西、則松)で飼育してもらい、メダカの勉強会を九州共立大学の助教授を講師に招いて実施しました。



フリーマーケット&ライブ ひとつぼてん

ストリートライブ・バナナの叩き売り・高齢者疑似体験などを実施しました。
【開催日】10月22日(日)
【場所】JR折尾駅(鷹見口前)

ホリスカ・フォト・カップ2006

携帯電話の写真機能などをを使った、堀川をテーマにした写真コンテストを実施しました。
【開催日】12月16日(土)～12月27日(水)
【場所】交流広場(折尾駅前オリオンプラザ内)



江戸時代の遠賀川は、現在のような大きな堤防(ていぼう)ではなかったので、大雨のたびに洪水がおこり、付近の村に大きな被害(ひがい)をあたえていました。そのため、福岡藩主(はんしゆ)黒田長政(くろだながまさ)は、遠賀川の曲がりのはげしいところをまっすぐにして堤防を強くする工事を始めましたが、1620年(元和6年)に再び洪水が起り、大きな被害が出ました。

長政は家老(からう)栗山大膳(くりやまだいぜん)をともなって洪水のようすを見て回り、遠賀川の水を分けて洞海湾(どうかいわん)に流すことで、洪水を防いだり農業用水を得られると考えて堀川の工事に着手しました。

このように、堀川は、人々の努力(どりょく)のすえ、183年間という長い年月をかけてようやく完成しました。その長さは約12kmで、遠賀川から楠橋村、中間村(なかまむら)、岩瀬村(いわせむら)、吉田村(よしだむら)、折尾村(おりおむら)を通り、洞海湾(どうかいわん)へとそぞぐ大運河(だいうんが)です。



中間の唐戸



寿命の唐戸

堀川まちおこし実行委員会
関係者一同

堀川の恵みを与えていました。しかし、近年になってその役割が無くなると人々の意識は次第に薄れ、「堀川」を大切にする気持ちが失われようとしています。そのような中、平成13年度から、地域と行政(北九州市、中間市、水巻町、河川管理者である福岡県)が協働で、かけがえのない流域の財産である「堀川」を愛する活動を開始し、「堀川」で繋がった流域全体の交流や連携を深めています。

この記事をご覧の皆様が、「堀川」に関する活動にふれていただくことで、「堀川」のまちづくり・まちおこしに关心を持っていただけ幸いです。

堀川に関する活動

堀川いっせい清掃

今年で5回目の堀川流域の清掃活動。折尾、中間、楠橋の3地区で清掃を行いました。また、水巻では1週間前に折尾・水巻の地域の皆さんが協働で実施しました。

【開催期間】9月24日(日)：水巻

10月1日(日)：北九州市、中間市

【参加人数】380人



堀川くるくる風車

流域の小学生やボランティア・市民センターの皆さんのが、ペットボトルで製作した約2,000個の風車を橋に飾りました。

【開催期間】9月20日(水)～10月23日(月)

【展示場所】北九州市、中間市、水巻町の堀川沿線の橋(16箇所)

笠尾川水辺の楽校で遊ぼう

小学4～6年生を対象にした体験イベント。カヌー教室やスケッチ大会など。

【開催日】10月8日(日)

【場所】八幡西区楠橋



金山川・堀川くるくるウォーク

JR折尾駅を出発し、金山川と堀川の川辺を歩く約11kmのスタンプラリー。

【開催日】10月22日(日)

【ルート】JR折尾駅～瀬板の森公園～金山川～堀川～JR折尾駅



問合せ先
堀川まちおこし実行委員会
事務局(北九州市八幡西区役所まちづくり推進課企画係)
TEL: 642-1441(内261)
堀川まちおこしのホームページ(結和流々)
<http://www.city.kitakyushu.jp/page/horikawa/index.html>

遠賀川の生きものたち



ミヤコドリ(都鳥) ミヤコドリ科

東京都の「都の鳥」であるミヤコドリはユリカモメである。

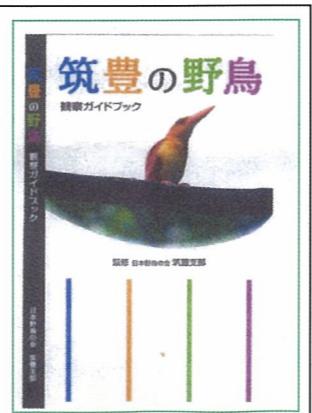
落武者のごとく身震ふ都鳥

日本野鳥の会 筑豊支部が贈る第2弾 「ひこさんの鳥」に次いで新登場

「筑豊の野鳥」

筑豊には232種もの野鳥が生息している。年間24回の探鳥会を中心に、英彦山例会を毎月定例化、筑豊を巡回し、野鳥を通じて自然環境保護に力を入れている「日本野鳥の会 筑豊支部」がビギナーや小学校や中学校の教材としても使える、やさしくわかりやすい内容の野鳥の情報誌(写真集)「筑豊の野鳥」を発行した。(3月末予定) 定価1800円(税込み)

問い合わせ先 日本野鳥の会 筑豊支部(松尾) 0948-23-7787



川づくりについて意見交流会を開催

主催 NPO法人遠賀川流域住民の会



平成18年10月21日、「第12回 I LOVE遠賀川流域住民交流会inたがわ」(田川未来塾共催)が高羽会館(田川市)で開催された。

基調講演では「本当の川とは」をテーマに、島谷幸宏教授（九州大学工学部地球環境工学科教授）から、「人は川の洪水をコントロールしながら川とつき合ってきた。川は自然の営みと人の営みの総合作業から作られた。近年、

多自然川づくりが行われ、川本来の姿に戻りつつある。子ども達の遊べる川、たくさんの人々が川に興味を持って、川づくりに参加してほしい」と語られた。

パネルディスカッションでは「きれいな水を取り戻すために？」をテーマに原口公子氏(北九州市環境科学研究所)、木原宗道氏(福岡県下水道課長)、島谷幸宏氏がパネラーに、そして、久永明氏(福岡県立大学教授)をコーディネーターに、「遠賀川流域では公共下水道の普及率は低い中で、全てが公共下水道ではなく、地域の状況に適合した処理システムを模索することが重要」「汚れた水を川の自然浄化に任せるのでなく、使った水をどうやって川に戻すのかで川は変わってくる」等の意見交換が行われた。

最後に「第12回 I LOVE遠賀川流域住民交流会inたがわ」の大会宣言文が読み上げられ、参加者のみなさんの「きれいな水をみんなで取り戻そう」という意気込みが感じられた交流会でした。

平成18年12月9日、ことぶきかいがん(飯塚市)で「遠賀川流域住民活動報告会」が開催された。

松木洋忠国土交通省遠賀川河川事務所所長が「遠賀川の川普請」と題して講演。遠賀川が果たしてきた役割やその移り変わり、そして、新しい時代に向けての川づくりを行政と住民が共に行うことの大切さが語られた。

赤池中学校の生徒のみなさんは、1年生の時に取り組んだ「彦山川での取り組み」の報告。さらに自主的な活動として「ひこさんがわ夢の会Jr」を結成。「福智町子どものプロジェクト」の一員として視察した佐賀県の「さがものがたり館」「アザメの瀬(松浦川)」の視察の報告。みんなの願いとして、福智町に三つの要望を提出された。未来に向かって頑張っている若い姿が輝いていた。

また、長年ほたるに携わってこられた中尾明子さんは、中尾明子さん(環境カウンセラー)
「小さな川のほたるを見つめて5年になる。自然はすばらしいドラマであり、感動することばかり。この経験を若い人達にもしてもらいたい」と話された。元気が出た報告会でした。



発表する赤池中学校2年生のみなさん



中尾明子さん(環境カウンセラー)

サケの稚魚の放流団体を募集

昨年、遠賀川河口から約35km地点で、雌のサケが帰ってきました。うれしい便りです。今年度も稚魚の放流を行います。放流希望団体は下記まで申し込みをお願いします。

NPO法人遠賀川流域住民の会
松岡事務局長 090-4581-8649
事務局（鬼塚）080-1760-6892

「NPO法人遠賀川流域住民の会」（窪山邦彦理事長）は、遠賀川の流域で活動する団体や個人で構成されており平成15年に設立。主な活動としては、「I LOVE 遠賀川流域住民交流会」「遠賀川流域住民活動報告会」を開催。また、遠賀川上流から下流までの住民に呼びかけ、遠賀川河口、芦屋海岸で清掃活動を実施。子ども達に、もつと河川で親しんでもらおうと「カヌー駅伝大会」や「サケの稚魚の放流」などを開催。幅広く活動されている団体です。

遠賀川中島の自然観察ウォークが開催されました



「なかまの環境を良くする会」大野孝通会長

遠賀川の河口から11km付近（中間市）に位置する中島（なかものしま）は都市化が進む遠賀川中下流において、大規模なヨシ原やヤナギ林などの多様な植生や鳥類、哺乳類などの重要な生育・生息空間となっている。今回、「なかまの環境をよくする会」主催の「遠賀川中島の自然観察ウォーク」が11月18日・23日、12月24日と開催された。

11月18日に開催された「中島自然観察ウォーク」では、あいにくの雨にも関わらず30人が参加。普段は一般の人に入る機会の少ない中島を探検し、生き物の観察の仕方や種類の見分け方、自然の中での遊び方を体験した。



見分けるのが難しい！ヨシかな？

て、中島を探索。遠賀川流域でよく見られるイネ科の植物ススキ・オギ・ツルヨシ・ヨシの違いを熱心に観察していた。参加者のひとりは「自然がいっぱい。この自然を大切にしたいですね」と話された。



中島も竹林が広がっていた

訂正とお詫び

「遠賀川流域だより」2号、2頁で「犬鳴川みどりの会」会長の名前を「篠栗一義」となっていましたが、正確には「笹栗一義」でした。訂正してお詫び申し上げます。

遠賀川流域だより

遠賀川流域だよりは、流域に住む住民の皆さん情報を作成しています。

発行責任者 国土交通省遠賀川河川事務所

住所 直方市溝堀1丁目1-1

電話 (0949)22-1830

FAX (0949)22-2859

<http://www.qsr.mlit.go.jp/onga/>



「なかまの環境をよくする会」は中間市民が中間市の環境を良くすることを目的に平成18年に結成された。
「廃棄物対策部会」「自然環境保護対策部会」「環境教育部会」「温暖化防止対策部会」などそれぞれ部会が形成されている。

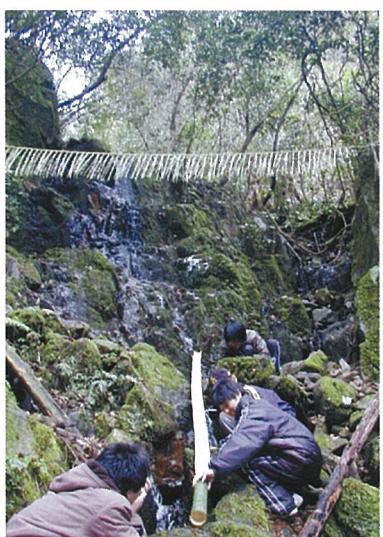
「自然環境保護対策部会」では水質調査の実施や、子ども達が川辺で楽しく安全に遊べる環境づくりなどが検討されている。

今年もよい年でありますように
あけましておめでとうございます
今年も遠賀川の源流の若水を
元旦にいただきに行きました。

声

若水くみは、毎年の皆さんが準備をしていています。今年も美味しいお雑煮をいただきました。ありがとうございました。

I LOVE 遠賀川 in 嘉穂実行委員会の皆さんが準備をしていています。今年も美味しいお雑煮をいただきました。ありがとうございました。



<声ではみなさまの投稿をお待ちしています>